

□■アセアン諸国の自動車生産概況レポート■□

こんにちは。島根・ビジネスサポート・オフィスの佐藤です。

2017年のアセアン圏内の自動車生産台数は404万7,196台で前年比の0.6%増でした。台数の伸びを牽引しているのはタイとインドネシアで、ASEANにおけるシェアはこの二国だけで8割を占めます。

ASEANの自動車生産台数（出所：アセアン自動車連盟※AAF）

国名	2017年	前年比	シェア
タイ	1,988,823	2.3%	49.1%
インドネシア	1,216,615	3.3%	30.1%
マレーシア	499,639	▲8.4%	12.3%
ベトナム	195,937	▲17.0%	4.8%
フィリピン	141,252	20.9%	3.5%
ミャンマー	4,930	328%	0.1%
合計	4,047,196	0.6%	100.0%

タイの自動車産業は2013年の生産台数245万台をピークに、以降5年は新車販売が伸びず、年産200万台弱と低迷が続いてきました。2017年の5年ぶりのプラス成長は、消費者の景気に対する信頼感の向上や期待を感じさせるもので、タイの盤谷日本人商工会議所（JCC）が毎年年初に開催するタイ経済の景気討論会においても、2018年の市場について上向きの観測が過半数を占めました。過去5年の景気低迷には、2011年9月から2012年末にかけて実施された、自動車の5年間の保有を条件とする新車購入支援策「ファーストカー減税」が背景としてありました。政策実施期間における急激な需要の拡大は、その後のタイ市場に深刻な影響を及ぼしました。しかし、2017年から今後数年にかけて、政策時期に自動車を購入した消費者層の買い換えが本格化する可能性があります。

国内販売で長らく苦戦が続いていたタイに対し、人口の多いインドネシアでは2年間連続で新車販売台数が伸びています。インドネシアの新車販売台数は過去5年間100万台超を推移しており、アセアン最大の市場です。2017年は石炭などの資源業界が好調で、商用車の販売台数が大幅に伸びました。以前は国内市場向けの生産が中心でしたが、貿易収支の悪化を解消するため、輸出拠点として日系自動車メーカーを中心に積極的に外資を誘致してきたため、2014年以降は輸出が国内販売を上回るようになりました。2000年以降毎年5%前後の経済成長率を安定的に維持してきた発展著しい国ですが、近年の国内の自動車生産能力の向上に消費者の購買力がまだまだ追いついていない状況で、国内の工場設備の稼働を維持するためには、タイと同様に輸出に活路を見いだす必要があります。

ASEANの新車販売台数（出所：アセアン自動車連盟※AAF）

国名	2017年	前年比	シェア
インドネシア	1,079,534	1.7%	32.3%
タイ	871,650	13.4%	26.1%

マレーシア	576,635	▲0.6%	17.3%
フィリピン	425,673	18.4%	12.7%
ベトナム	250,619	▲7.5%	7.5%
シンガポール	116,148	5.2%	3.5%
ブルネイ	11,209	▲15.4%	0.3%
ミャンマー	8,225	97.3%	0.2%
合計	3,339,693	5.4%	100.0%

マレーシアは国産メーカー（プロトン、プロドゥア）が国内市場の約半分を占める、アセアンの中では特殊な国です。かつては価格優位であった国産メーカーが外国メーカーに対してアドバンテージを有していましたが、国民の生活水準の向上に伴い、日系自動車メーカーがシェアを拡大しつつあります。2010年以降、生産台数60万台を維持していましたが、2016年に原油価格の下落や消費税導入などを背景に初めて60万台を割り込み、2017年も60万台を回復することができませんでした。マレーシアの現地生産車は輸出向けが少ないため（新車市場に対する国内生産は87%）、国内販売台数の低迷を受けると生産台数も減少を避けられません。

フィリピンでは経済成長を背景に購買層が拡大し、販売台数はほぼ毎年2桁の成長を続けています。18年1月からの新車物品税引き上げを見越した駆け込み需要もあり、2017年も大幅に販売台数を伸ばしています。一方で、インドネシア、タイなどアジア主要国に比べると生産台数の規模は小さく、産業の集積も進んでいません。新車販売のうち国内生産は3割程で、需要は主に輸入車で賄われています。2015年にフィリピン政府は、自動車の現地生産を促進するための「包括的自動車産業振興戦略（CARS）」プログラムを公布し、現在ではトヨタと三菱の二社が現地生産を後押ししています。

ASEAN 物品貿易協定（ATIGA※2010年1月発効）で後発 ASEAN 諸国（カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム）が関税撤廃を猶予されてきた品目－乗用車やオートバイの一部にかけられていた関税30%が、2018年1月1日より完全撤廃されることを見据え、ベトナムでは2017年に自動車の買い控えが拡大し、各メーカーは軒並み販売数を減らすこととなりました。2018年にはその反動が期待されましたが、関税撤廃の日に合わせて、ベトナム政府は自国産業保護のため、自動車の輸入に厳しい条件を求める「政令116」を発表し、輸入車の制限を行いました。外資メーカーは条件を満たせないまま、現在も完成車の輸入をできない状態にあります（※ベトナム税関総局が2月8日に発表した1月の完成車輸入台数は、前年同月比95.3%減の340台のみ）。昨年末までに仕入れた在庫にも限界があり、このまま輸入要件が緩和されなければ、輸入ブランドは大きな打撃を受けることになりそうです。既に国内では輸入車の価格上昇や品薄・品切れが見られ、消費者の国産車購入への切り替えの動きも始まっています。過去のベトナム自動車市場の3割は輸入車が占めており、完成車輸入台数（9万7,213台）のうち、タイとインドネシアのシェアはその半分以上を占めていました。そのため、今回のベトナムの動きに対し、タイやインドネシアの自動車業界は警戒心を露にしています。

2018年からの経済統合をにらみ、一部モデルを現地組み立てからアセアン圏域（タイやインドネシア）からの輸入に切り替えた日系自動車メーカーもあり、これから国内生産に回帰するにも準備には時間を要します。

2018年の経済統合を踏まえた各国政府の動向に注目しつつ、日系企業も生産体制を再構築していく必要がありそうです。

《タイビジネスインタビュー》

～タイで活躍する島根県企業の駐在員の方をご紹介します。～



STC Mechatronics (Thailand) Co. Ltd.
Managing Director

泉 英樹 さん

にお話を伺いました。

—御社の事業内容、事業規模について教えてください。

日本本社のエステック株式会社の製品をタイ国内と近隣国に販売及び保守サービスの提供をしています。タイ国内には、私どもとは別に STC Precision【※STC Precision (Thailand) Co.,Ltd.】という工場を運営している会社もございます。エステック本社の主要製品である「切断機」を STC Precision で製造し、そちらの製品も本社の製品と同様に STC Mechatronics の製品として我々が販売をしています。

私どもの会社の従業員は現在6名です。うちセールスエンジニア2名、セールス2名で事実上稼働しています。製造工場である STC Precision には 30 名弱の従業員がいます。設計から製造に関わるものまで全て含めてこの体制で動いています。

—タイに進出したきっかけを教えてください。

他の進出企業の皆様と同様にタイで一部製造してコストダウンを計ったり、タイ国内で当社の機械を使用されている企業様に対するサポートとアフターフォローを目的として進出しました。進出して4年目になります。

—主要製品の紹介と御社の強みを教えてください。

日本本社は鉄鋼業向けの「試料調整装置」の製造・販売を基本的な事業の柱としています。そこから派生した製品として、「切断機」があります。「試料調整装置」というのは、金属を作る際、金属の成分を測るための試料(サンプル)を作成するのですが、そのサンプルを作るための装置で、一言でいうと金属の成分検査用のサンプルを作る装置です。

タイ国内では鉄鋼業はほぼ無いに等しい産業なので、本社の柱である「試料調整装置」に関しては、マーケットがあまりありません。そのため、タイで主力として販売しているのは「切断機」となります。強みとしては、タイ国内に工場があり、設計から製造まで可能なので、出来合いの切断機を販売するのではなく、お客様の要望に沿ってカスタマイズができることです。

本社の想いとして「世にないものを作り出す」という考え方を持っていますので、常に新しい製品を作り出せる体制と歩みを止めないよう思考を続けて行動しています。

—今後の事業の展望について教えてください。

タイにおいては日系の会社の中でも知名度の低い会社ですので、これからは日本とは違う取り組みを始めたいと考えています。商社の方の協力を得ながら、お客様への商品説明や技術情報の提供などをセミナーや企業訪問のような形で行ったり、代理店や販売協力店との関係を急遽構築できるよう準備を進めています。当社のこういった取り組みにご協力くださる日系の商社さんと上手く関係を結んで、我々の事業の基盤を安定させていきたいと考えております。

—最後に、読者の方へ一言お願いします。

私どもの主要製品は「切断機」ですが、その他にも工場でどんな機械設備でも製造することができますので、案件があれば是非お声がけください。また、検査用に物を破壊するための「切断機」が主力なのですが、タイ国内では以前に比べ、製造業の会社さんが納品の際に求められる検査の要求が増えてきており、我々の事業も緩やかにではありますが広まってきています。関心がある企業さんがあれば、代理店や販売協力のような形でパートナーシップを結んでいきたいと思っています。商社さんに限らず、販売を担ってくださる会社さんとしっかりとした協力関係を結んでいけたら幸いです。是非ともお声掛けください。

お問い合わせ先

【STC Mechatronics (Thailand) Co.,Ltd.】

HP : <http://www.stc-th.com/>

住所 : Piansri Wattana Building 5F, 29/9 MOO 14, Bangna-Trad Rd, Km.6.

Bangkaew, Bangplee, Samutprakarn 10540 Thailand

電話 : (+66)02-745-9855 FAX : (+66)02-745-9855

☆☆タイから便り☆☆

～「色を気にするタイ人」～

こんにちは。島根・ビジネスサポート・オフィスのタイ人スタッフ、ビューです。
今回は色を気にするタイ人について書きたいと思います。タイでは曜日ごとに色が決まっていることを、皆さんはご存知でしょうか。ヒンドゥー教の影響で、曜日ごとに神様がいて信じられています。日本人の友人に「生まれた曜日はいつですか？」と聞いても、答えられる人は一人もいません。しかし、タイ人は誰でも自分の生まれた日の曜日と、その曜日の色を知っています。親は子供に誕生日の曜日や色について教えますし、学校でも生徒に各曜日の色を暗記させるからです。仏教では曜日ごとに仏像も決まっています。また、星座占いや血液型占いと同じように、曜日ごとに性格や運勢を占います。自分が生まれた曜日の色はラッキーカラーでもあり、服装の色だけでなく、財布や寝具、お金を預金する銀行のロゴ、口紅、ネイル、髪の色などもその色にすると幸せになれるという信念があります。

プミポン前国王の誕生日は月曜日(12月5日)だったので、タイ人は毎年前国王の誕生日になると、月曜日の色である「黄色」の物を身に着け、祝福の気持ちを表現し、街中が黄色一色となりました。王妃の誕生日は金曜日なので、王妃の誕生日になるとタイ人はブルーのTシャツやポロシャツを身に着けます。

～誕生曜日の色～

月曜日 黄色	火曜日 ピンク	水曜日 緑	木曜日 オレンジ	金曜日 ブルー	土曜日 紫色	日曜日 赤
-----------	------------	----------	-------------	------------	-----------	----------

このように、タイ人にとって色は大変重要です。2016年10月13日、タイの全国民から敬愛されていたプミポン前国王がお亡くなりになり、政府からは、「全ての公務員及び国営企業従業員、政府機関職員は、17年10月14日より1年間喪に服すように」との発表がありました。一般のタイ人も同様に

喪に服し、ほぼ全てのタイ人が黒または白の服を身に付けました。タイ国政府観光庁(TAT)からは、外国人観光客に向けて「現地では国を挙げた服喪期間となっており、多くのタイ国民が黒または白の衣服を着用しているため、強制されるものではないが、可能であれば公共の場所には暗めの色の礼節ある衣服を着用することが推奨される」と注意が促され、外国人もしばらくの間は黒や白、灰色の服を着て過ごしました。デパートのショップの看板、企業のウェブサイト、SNS のアイコンなども白黒に切り替えられ、国を挙げて追悼の意が表されました。



献花を供えるため黒い衣服を着用している人の列



プミボン前国王の火葬式

タイ国内では 2006 年以降、タクシン元首相派(赤シャツ)と反タクシン派(黄色シャツ)の 2 つの政党が政権を争い、幾度となくクーデターやデモが起こっています。デモの最中は、支持者がそれぞれのシンボルカラーのシャツを着て街中で集会を行います。そのため、赤、黄色、迷彩柄の服を着ないよう注意が喚起されます。いずれの派閥にも属さないことを示すため、白い服を着用する人もいます。タイ人にとって色は、自身の思想を表現するものでもあります。

最期に、ご自分の誕生日の曜日に興味がある方のために、曜日を調べるサイトをご紹介します。ぜひ覗いてみて下さい。

<http://www5a.biglobe.ne.jp/%257eaccent/kazeno/calendar/>

島根・ビジネスサポート・オフィス Shimane Busuiness Support Office(Bangkok)

担当 ; 佐藤 揺 Tayuta Sato

Address : 1 Glas Haus Building, 12 FL., Room 1202/D, Soi Sukhumvit 25,
Sukhumvit Rd., Klongtoey-Nua, Wattana, Bangkok 10110

Tel : +66-(0)-2-261-10588

Mobile : +66-(0)-89-200-7763

Mail : shimane-bizsup@aapth.com

お気軽にご連絡ください。

当拠点の運営法人 (島根県より業務委託)

■ アジア・アライアンス・パートナー・ジャパン株式会社 <http://www.aapjp.com/index.html>

タイを中心に、ベトナム・インドネシア・インドにて主に日系中堅・中小企業様のアセアン進出や進出後の会計税務法務を中心とした運営支援業務を行っております。

▶ タイ経済指標

項目	単位	2014	2015	2016	2017
GDP 成長率	前年比ベ (%)	0.9	2.8	3.2	3.8(1~9月)
人口*	千人	67,065	67,293	67,506	67,684(11月)
労働者の数*	千人	38,963	39,165	37,792	37,716(12月)
失業率**	%	0.84	0.89	0.99	1.18(12月)
最低賃金*	バンコク	300	300	300	310(18年1月)
	チョンブリー	300	300	300	308(18年1月)
	アユタヤー	300	300	300	308(18年1月)
	ラヨーン	300	300	300	308(18年1月)
賃金:全国製造業の平均	バーツ	12,074	12,305	12,402	12,473(12月)
インフレ率**	前年比ベ (%)	1.90	▲0.90	0.19	0.67(12月)
中央銀行政策金利*	%	2.00	1.50	1.50	1.50(18年1月)
普通貯金率**	%	0.59	0.56	0.47	0.47(12月)
ローン金利(MLR)**	%	6.96	6.75	6.47	6.35(12月)
SET 指数*	1975年:100	1,497.7	1,288.0	1,542.9	1,826.86(18年1月)
バーツ/100円**	バーツ	30.77	28.31	32.53	28.74(18年1月)
バーツ/米ドル**	バーツ	32.48	34.25	35.30	31.9(18年1月)
円/米ドル**	円	105.84	121.0	108.8	110.7(18年1月)
車販売台数(1月からの累計)	台数	884,346	795,905	765,593	869,763(12月)
BOI 認可プロジェクト	件数	1,662	2,237	1,688	1,227(1~12月)
BOI 認可プロジェクト金額	10億バーツ	729.4	809.4	861.3	625.08(1~12月)

*期末、**平均